

19 病理診断科

選択研修（1ヵ月以上）

（1）一般目標

病理診断と臨床診断の相関を理解するとともに、疾患により適応や限界があることを理解する。

（2）行動目標と実践（OJT）

1）診断力の習得

- ①臨床診断と同様、病理診断にとっても、臨床所見、検査データが重要であることを理解できる。
- ②手術材料から切り出しを行い、組織標本を作製、鏡検し、病理診断にとって肉眼所見の重要性を理解し、診断できる。
- ③術中迅速診断を行い、その適応と限界を理解できる。
- ④細胞診標本を作製し、正確な診断には十分な検体量、適切な処置が必要なことを理解する。細胞診の適応と限界を理解する。
- ⑤病理解剖を実施し、その意義を理解する。
- ⑥病理報告書の診断、所見の意味を正確に理解できる。

2）実践

- ①指導医の指導のもと基本的手技の診断を経験する。
 - ・術中迅速診断用標本の切り出し
 - ・組織標本の作製手術材料を肉眼的に検索、必要に応じて写真撮影し切り出しを行う。
 - ・細胞診標本の作製
 - ・病理解剖
- ②指導医の指導のもと染色標本の診断を経験する。
HE染色、パパニコロウ染色、各種特殊染色、各種免疫染色、蛍光染色
- ③カンファレンス
外科カンファレンス、放射線画像カンファレンス、院内CPC、Cancer boardに参加し、プレゼンテーションにも参加する。

【標準的週間スケジュール】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	迅速診断 組織診断	カンファレンス	迅速診断 組織診断	カンファレンス	迅速診断
午後	切り出し	切り出し	切り出し	切り出し	切り出し

毎週木曜日の外科との合同カンファレンスに参加
月2回、放射線画像カンファレンスに参加
病理解剖と院内CPCは随時